

能登の 海からのたより

2023.10 No.81



猛暑の中の「夜の水族館」

今年の夏は本当に暑かったですね。全国各地で記録的な暑さとなりました。そんな中、今年も少しでも暑さが和らぎ、普段は閉館している夕方から「夜の水族館」を開催しました。日中とは違うライトアップされた水槽やイルカショー、通路など幻想的な雰囲気を楽しんでもらえたのではないでしょうか。

コツメカワウソ

コツメカワウソって どんな生きもの？

水槽の中を忙しく動き回り愛くるしい姿を見せてくれるコツメカワウソ、今では全国の動物園水族館で見ることができます、みなさんはコツメカワウソたちがどこからやってきたかご存じでしょうか？

コツメカワウソはインドやフィリピン、中国などの南アジアから東南アジア周辺に生息しており、沿岸部の湿地や川沿い、丘陵地や山麓地帯などさまざまな環境でくらしている生きものです。全部で13種類いるカワウソの中では、体の大きさは約40～60cmで体重も約3～6kgと小さな体つきをしています。自然下ではカタツムリなどの軟體動物、カニ、昆虫や小さな魚などを食べてくらしている雑食の生きものです。コツメカワウソの一番の特徴といえば名前の由来にもなっている小さな爪です。少し見ただけではわからないくらいの小さな爪が生えており、その手先はとても器用でエサや小さな石などもしっかりと掴むことができます。



のとじま水族館のカワウソたち

それでは、当館で飼育している2頭のコツメカワウソをご紹介したいと思います。まずはヨツバ、今年で17歳になったオスのカワウソです。コツメカワウソは飼育下での寿命が約15年といわれて

いるのでかなり高齢ですが、まだまだ元気にくらしています。若いころに比べると体の毛の色が白っぽくなったり、少しおなかが出てきたりと違いは見られます、エサも昔と変わらずによく食べてくれるおっとりとした性格のカワウソです。次にレベッカ、15歳のメスのカワウソです。ヨツバと比べると体がやや小さく、少し黒っぽい見た目をしています。性格はかなりやんちゃで、掃除をするために獣舎に入ると足元にまとわりついてきたり、掃除道具に飛びついてくるなど元気いっぱいな姿を見せてくれています。



ヨツバ



レベッカ

カワウソの一日

水槽内を忙しく動き回るイメージが強いコツメカワウソですが、実は多くの時間を寝過ごしています。朝、獣舎の電気を点けに行くとタオルの中にくるまって寝ていますし、エサを与えた後も少し毛づくろいをした後すぐに切り株の上に登って2頭仲良く丸まって寝ていま

す。閉館時に電気を消しに行っても巣箱に入ってすぐに寝始めるなど、一日中見ているとほとんど寝ているんじゃないかな…?と思うほどよく寝る生きものです。その割に、一日三回あるエサの時間の前にはしっかりと起きて獣舎内を忙しく動き回っています。動いて食べてよく寝る、羨ましい限りです。



コツメカワウソの今後

今では多くの動物園水族館で見ることができるようになったコツメカワウソですが、以前ニュースなどで多く取り上げられた密輸問題や、本来の生息地での個体数の減少によって、現在、国をまたいで移動が原則禁止になっています。海外から新しい個体が移動できなくなってしまうと、将来的には日本でコツメカワウソも見ることができなくなってしまう可能性があります。そのようなことにならないように、動物園水族館で協力してコツメカワウソという種の保存に取り組んでいます。

[加藤大]

ユメカサゴの繁殖に挑戦～孵化への道のり～

水族館の中で繁殖とは大きな意味をもつ活動です。全ての生きものは絶滅してしまう可能性をもっており、絶滅の危機から守っていく必要があります。私たちができるることは生きものの生態を研究し、命を絶やさないための活動を行わなければなりません。今回のアクアリウムフォーカスでは、繁殖活動の内容や難しさを知っていただければと思います。

当館では17尾のユメカサゴが飼育展示されています。ユメカサゴはスズキ目メバル科の魚で、青森県～薩摩半島の太平洋沿岸、若狭湾～九州北西沿岸の日本海、南シナ海側の水深水深150～200mに生息しています。メバル科の多くは卵胎生といって、メスが受精卵をおなかの中で孵化させた状態で出産するのですが、ユメカサゴは20cmほどのゼリー状の卵帯を産みます。



ユメカサゴの卵帯

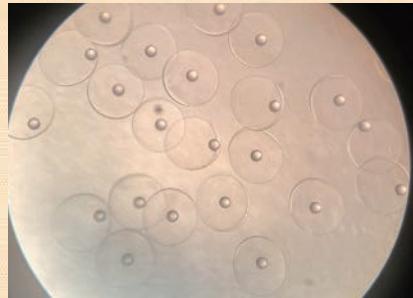
そして今年のユメカサゴの産卵は、まだ私が入社したての4月に始まりました。最初に卵帯を取り上げたのは4月25日、初めて見る卵帯に気持ちを昂らせながら、急いで予備水槽を立ち上げました。低水温で飼育しているため、温度が上がらないように、また卵帯が流れてしまわないようにしなければなりません。はじめは、予備水槽の中に浮かべたバケツに卵帯を入れる方法を取りましたがこの方法では短時間で水が悪くなってしまうため、毎日水換えを行いました。



バケツに収容した卵帯

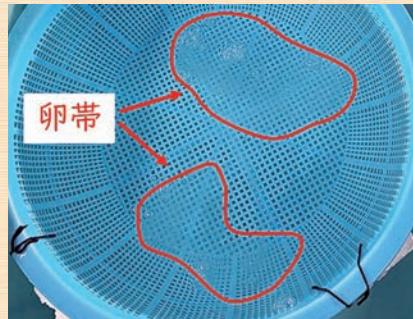
毎日のように産まれる卵帯に、予備水槽では間に合わず濾過槽にまでバケツを浮かべていましたが、毎日の水換えを行うも全て3日ほどで腐ってしまい

ます。顕微鏡での観察も行っていましたが、発生はみられませんでした。



顕微鏡で観察した卵

環境が良くないのか、光を当てているからなのか、もしくは受精していないのではないか、考えられる要因はたくさんありました。過去に孵化を成功させたことのある先輩にアドバイスをもらいながら、環境を整えようと挑戦しました。水質悪化の可能性を減らすため、予備水槽の中にザルを浮かべ、その中に卵帯を入れ水の流れを当てる方法や、水質悪化のスピードを遅らせ、水流を作らない大きな桶の中に入れる方法、また他には黒い板で光をふさいでみると、試行錯誤を繰り返しますが発生はみられませんでした。



ザルに収容した卵帯

卵帯は朝の見回りの際に見つけることが多く、夜間に産卵が行われていると考え夜間カメラを設置しました。ユメカサゴの繁殖行動は、交尾を行うのか、産み落とされた卵にオスが精子をかけるのか、はたまた特殊な繁殖行動を行うのか、まだ分からぬ部分が多いのです。ですが産卵した瞬間、他の個体が卵帯に精子をかけている様子を撮影できれば、繁殖行動は明らかになります。数回、夜間観察カメラを設置しましたが、タイミングが合わなかったのか産卵行動が見られたのは一度だけでした。映像には、メスが産卵した直後に卵帯に精子をかける個体はいませんでした。

この結果により、カメラで捉えた産卵は交尾を行わないのであれば受精していない、交尾を行うのであれば受精している可能性、もしくは交尾せずに生まれた無精卵の可能性があります。そして産卵直後の卵帯を顕微鏡で見てみると、今までの卵の形と変わりがなかったことから今までの卵はすべて、受精していないかったようでした。試行錯誤を繰り返すうちに時間が過ぎ、8月に入る

アクアリウム
Aquarium focus
フォーカス

と産卵はほとんど行われなくなってしまいました。現在の知識と経験の少ない私には難しい挑戦で、結果として卵の発生がみられることはありませんでした。今回の結果で、考えられる要因は4つあります。

- 1、環境を整えられていなかった可能性
過去に孵化した条件を作り出していたつもりでしたが、環境が合わないため、発生しなかった可能性があります。
- 2、卵帯が受精していない可能性
繁殖行動が定かではないため、撮影で卵帯に精子をかけている様子が見られなかったことから、受精卵ではない可能性があります。
- 3、不完全な受精の可能性
当館のユメカサゴは10年近く飼育されており、全長も最大30cm近くあり高齢です。生殖能力低下により、受精していても発生が進んでいない可能性があります。
- 4、すべての個体がメスの可能性
現在飼育している全個体がメスの可能性もあります。



2023撮影



2012撮影

この点を踏まえ、今後は「多様な環境を作る」・「人工授精を試みる」・「カメラを設置し、繁殖行動を観察する」など繁殖に向けて改善していくたいと考えています。数年後に当館で繁殖したユメカサゴをみなさんにお見せできることを目指して飼育を続けていきたいです。

[山口]

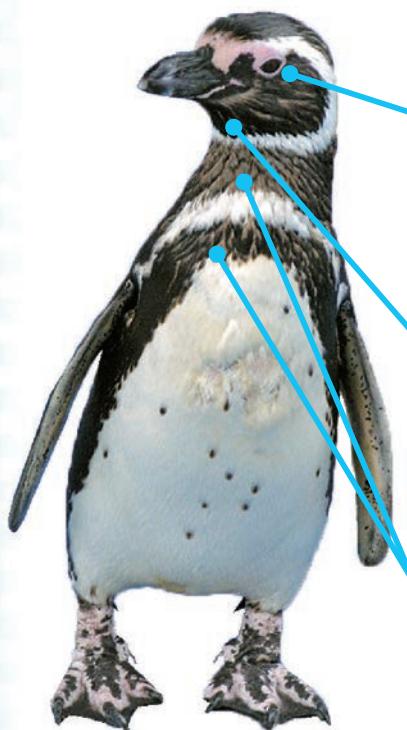
マゼランペンギンとフンボルトペンギン

「マゼランペンギン」と「フンボルトペンギン」
よく似ているけどちがうところがあるんだよ！



見た目のちがい

マゼランペンギン



あかちゃいろ
赤茶色

くろ
黒

ほん
2本

め
いろ
眼の色

くちばし
した
嘴の下

せん
かず
線の数

フンボルトペンギン



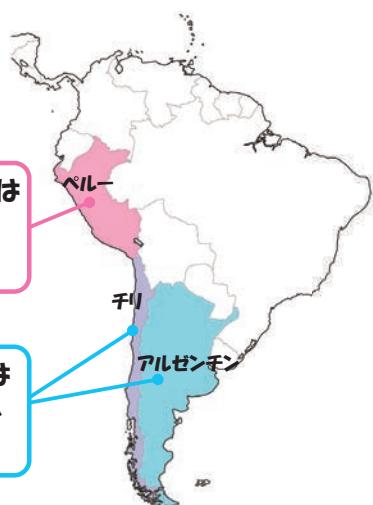
きんいろ
金色

ピンク

ほん
1本

生息地のちがい

南米大陸



フンボルトペンギンは
ペルー・チリ
に生息しているよ

マゼランペンギンは
チリ・アルゼンチン
に生息しているよ

マゼランペンギンは
1年に1回※
たまごを産むよ

フンボルトペンギンは
1年に2回※
たまごを産むよ



※例外あり

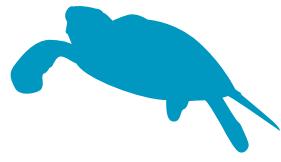


マゼランペンギンのヒナは
産まれてすぐは
体の色はまつ黒

フンボルトペンギンのヒナは
産まれてすぐは
体の色は灰色

ようこそ水族館へ

～生きものたちのエピソード～



企画展に向けた乗船採集

当館では、毎年異なるテーマで年間4回の企画展を開催しています。今年度3回目に行う企画展のテーマは「水中のそっくりさん展～あなたは見分けられるか?～」です。

企画展に使用する生きものはたいてい採集や業者からの購入で集めていますが、今回はそれらの方法では一部入手できない種類がいましたので、能登島の漁業者の船に乗せていただき、採集することになりました。今回狙うターゲットは「マアジ」と「マルアジ」です。

マアジはみなさんも普段の食卓などでよく見かけるかと思いますが、マルアジという魚はご存知でしょうか?どちらも非常によく似た見た目をしているアジ科の仲間ですが、マルアジはおそらくスーパーではあまり見かけない魚ではないでしょうか。

能登島の定置網漁でも漁獲されるマルアジですが、当館では



マルアジ

これまで展示例はほとんどありませんでした。マルアジは体表がとてもデリケートなため、運よく水族館へ搬入できても、長期的な飼育は非常に困難でした。そこで少しでも元気な状態で水族館へ搬入するために、今回の乗船採集が決行されました。

採集はスタッフ2名で乗船し、早朝3時に能登島の鰯目漁港を出港しました。定置網が設置されているポイントまでは15分ほどで到着し、いざ網の中を覗くと… 目の前に広がっている光景に愕然としました。網の中で泳いでいる魚の密度が予想以上に高かったのです!! マルアジそっくりのマアジのほかに、カマスやサバなど大量の魚たちでごった返している中、マルアジを見つけ出すことは困難を極めました。最初は船上から網の中で泳いでいるマルアジをたも網で掬い取る予定でしたが、急遽作戦変更!一人がランダムにたも網でアジの群れを掬って船上

のカゴの中に入れ、もう一人がカゴの中で激しく飛び跳ねる魚たちの中からマルアジとマアジを見分けて、海水を張ったバケツに収容する作戦で行いました。漁業者のご協力のおかげで、なんとかマルアジも含めたアジ類を集めることができました。しかし、安心してはいられません、ここからが本番です。海水を張ったタンクの中で酸欠になってしまわないようにホースで常に新しい海水を送り続け、帰港するまでの間は非常に気を使いました。そのかいもあって、全個体を無事に水族館の予備水槽へ収容することができました。たも網で掬う際、体にできた傷からの二次感染を予防するため、飼育水に薬を溶かし、飼



マアジ

育を開始しました。水槽に搬入したばかりは泳ぎも落ち着かず、不安定な状態でしたが、三日も経たずにエサを食べ始め、一週間が経った頃にはかなり落ち着いた状態で泳ぐようになりました。



薬を溶かした黄色い水の中で飼育中のアジたち

育を開始しました。船上での手早い作業や予備水槽の広さ、早くから始めた治療などが功を奏したのだと思われます。このまま安定した状態が続ければ、マルアジの展示も夢ではありません。

今回のマルアジのように乗船しなければ採集できないような珍しい生きものなども、今後展示してみなさんにご紹介していければと思います。

[義川]



飼育員がとらえた 奇跡の一枚



卵が産まれる瞬間（監視カメラから抽出）

『ポンッ』

と音が聞こえてきそうなほど、勢いよく産み落とされた瞬間です!産まれる瞬間をこんな風に見られるのは、まさに奇跡ですね。産んだのは、マゼランペンギンのマリン。

産卵する前はそわそわと動き回り、やがて産まれる間近になると腹ばいになり、ふんばるような体勢に変わりました。10分ほどいきむ様子が見られた後、ポンッと卵が出てきました。その後すぐにマリンは体の向きを変え、卵を温めはじめました。さすが母ですね。

[竹山]

企画展の開催



「むかし、むかしの魚展」 (2023. 4. 8 ~ 7. 2 開催)



みなさんは“生命”がいつ地球に誕生したかご存知ですか。文献によると約40億年前に最初の生命が誕生したといわれています。その後、さまざまな進化をくり返し、約5億5000万年前に地球上初の魚類が誕生しました。私たちが見慣れている魚たちとは似ても似つかない姿をしていましたが、途方もないほどの長い時間をかけて、今の魚類へと進化していきました。しかし、そのなかには姿形をほとんど変えずに生き抜いた魚たちもいます。いわゆる「生きた化石」とよばれるものたちです。今回の企画展ではそんな古代生物を中心で展示しました。

会場内では、ヒレから足へと進化した名残である「肉鰓」や非常に頑丈なウロコである「ガノイン鱗」など現存する魚たちにはない、古代魚だけがもっている体の秘密や、生命誕生から

現代に至るまでの生きものたちの長い進化を追った年表、アノマロカリスやダンクルオステウスなど各時代を代表する海洋生物を解説板にて紹介しました。

私たちが日常で接する魚とは一風変わった姿や生態の古代魚をご覧になって、数億年の生命の壮大な歴史を感じていただけのではないでしょうか。

〔義川〕

「夏はやっぱり金魚でしょ！展」 (2023.7.8 ~ 10.1 開催)



赤や白、茶色や黒で水槽を色とりどりに飾る夏の風物詩、金魚。みんなに夏のいやしをお届けするため、「夏はやっぱり金魚でしょ！展」を開催し、さまざまな金魚を展示しました。

金魚の歴史はとても古く、遠い昔、中国で鮒(フナ)の仲間が突然変異し、ウロコが赤い「絆鮒(ヒブナ)」が生まれ、「和金(ワキン)」が誕生しまし

た。そこからさらに品種改良が重ねられ、今では約100種類の金魚がいます。今回の企画展では、その一部の金魚を展示しました。金魚は横から見るのはもちろん、上から金魚を鑑賞する「上見(うわみ)」というもう一つの楽しみ方があります。今回は上見を楽しんでもらえるように目線よりも下に配置した水槽もありました。横、そして上から金魚を楽しんでいただけたのではないかでしょうか。



さて、家で飼育をする人も多い金魚。ただ飼育をするだけでなく、金魚の歴史をもっと詳しく調べてみるのもいいですね。

〔釣宮〕

「みんなのはてなに答えます！」開催

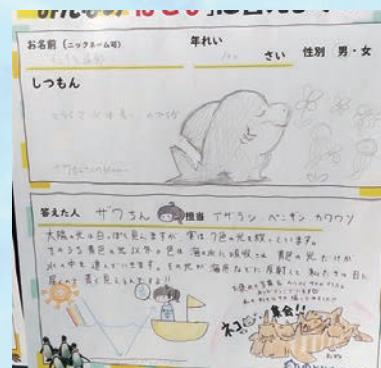


3年以上にも及ぶコロナ禍のいろいろな場面で、いわゆる“三密”を避けて行動することが“当たり前”になってしまっていました。当然ながら水族館でもこれは同じで、生きものや飼育員と入館者の距離感も少なからず感じるようになっていました。そこで、それまでの日常だった入館者とのつながりの機会を少しでも増やしたいという飼育員の思いから「みんなのはてなに答えます！」を開催しました。

このイベントは生きものや飼育員への素朴な疑問、質問に応えるもので、2023年4月19日の「飼育の日(語呂合わせで)」から約1か月間、質問を記入する用紙を「ジンベエザメ館青の世界」に設置しました。こちらの予想をはるかに超える約280枚以上の質問が寄せられ、驚きながらも通常業務の合間に縫って飼育員全員でそれぞれに回答を記入しました。生きものたちのエサ、寿命、生態についてはも

ちろん、「飼育員になるためには?」といったものまでその内容は多岐にわたり、入館者のみなさんがどんな点に疑問を持っているかを知ることができたように感じました。中には、「海の水はなぜ青く見えるの?」や「水族館の電気代はいくら?」、さらには恋愛相談まで…。

この質問用紙の一部は5月上旬～7月2日までジンベエザメ館内で展示を行い、他の入館者の方にもご覧に

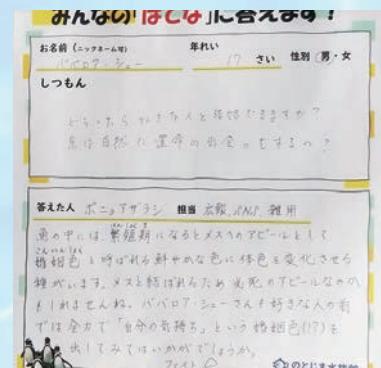


海の水はどうして青く見えるの?

なっていただき、「へえ～、そうなんだ」といった声や時折くすっと笑顔になる方もみられました。

日常を取り戻しつつある今後は、こうしたみなさんの疑問に応えていけるよう対話による解説を充実させていかなければと考えています。ご来館の際はぜひ、飼育員に気軽に声をかけてみてくださいね。みんなの「?」が「!」に変わるかもしれませんよ。

〔高橋〕



恋愛相談!?



「○○の日」イベント開催！！

みなさんは生きものに関する記念日といわれて思いつく記念日はあるでしょうか？例えば7月29日は「世界トラの日」に制定されており、絶滅危惧種であるトラの保全に関心を持ってもらうための国際記念日となっています。当館では入館者に海や河川、そこにすむ生きものたちの現状に興味を持つもらいたいという思いから、「世界カワウソの日」・「世界アシカの日」・「世界海洋デー」・「国際ジンベエザメの日」の4つ記念日にちなんだイベントを開催しました！そのイベント内容を少しご紹介したいと思います。

5月25日・28日に開催した「世界カワウソの日」イベントでは、コツメカワウソがペットのために乱獲され、その数を減らしている現状について話しながら、エサやり体験でカワウソの



魅力を伝えました。5月30日・6月4日に開催した「世界アシカの日」イベントでは、アシカの生態や日本の水



族館で取り組まれている繁殖について紹介し、当館でショーに出ているカリフォルニアアシカに向かってイベント参加者の方に輪っかを投げてもらい、ショーの中でも披露しているリングキャッチに挑戦してもらいました。6月8日・11日に開催した「世界海洋デー」イベントでは、温暖化や海洋汚染などの環境問題や、海の中に広がる



生態系について話した後、生態系の中にある食物連鎖について紹介するためにはイルカ・ジンベエザメ・ブリなどさまざまな生きものたちの給餌解説を行いました。8月27日・30日に開催した「国際ジンベエザメの日」イベン



トでは、実はまだまだ謎が多いジンベエザメの生態や現状についてクイズを交えて話した後、ジンベエザメの給餌見学と当館で与えているエサの紹介をしました。

各イベントに老若男女たくさんの方に参加していただき、真剣に話を聞いてくださるみなさんの姿を見ながら、さまざまな生きものの魅力だけではなく、保全状況や取り巻く環境なども伝えていくことが水族館の重要な役割の1つだと感じました。

〔木森〕



「ハチベエ・ハク1周年キャンペーン」開催

2022年9月28日にオスのハチベエ、29日にメスのハクが当館にやってきて1年を迎えることから、9月1日～30日まで「ハチベエ・ハク1周年キャンペーン」を開催しました。ジンベエザメは誰もが知っている生きものにもかかわらず、意外とその生態は謎に包まれている部分が多いことは知られていません。そのため、みなさんに楽しみながら知ってもらえるよう、ジンベエザメについてのクイズラリーを行い、ジンベエザメのヒミツと題し



ジンベエザメの口の骨格標本



ジンベエザメパネル

た大きなパネルや口の骨格標本の展示も行いました。そのほか9月17日には能登島をはじめとする地元の食や雑貨を集めた屋台村を開催し、このキャンペーンを盛り上げてくれました。

2頭が当館にやってきた時は全長が

4m前後でしたが、その後新しい環境にも徐々に慣れていき、エサも残さず食べ、大きな水槽を悠々と泳ぎまわり、今では全長5m前後まで成長しています。将来大きく成長し海に戻る2頭ですがそれまでの間、これまで当館で飼育してきた個体と同様、みなさんは温かい目でその成長を見守っていました。2年目を迎えた2頭の今後の更なる成長をお楽しみに！

〔高橋〕



9/17（日）開催の屋台村

EVENT & INFORMATION

企画展

水の中のそっくりさん展～あなたは見分けられるか?～

●開催期間 10月7日(土)～12月24日(日)

水族館大解剖展

●開催期間 1月6日(土)～4月7日(日)

チャレンジメニュー～飼育員体験～

イルカ教室

●開催日 10月29日(日)

さかな教室

●開催日 2月25日(日)

開催時間：10:00～15:00

定員：各回20名

対象：小学生とその保護者

※応募者多数の場合は抽選、定員・時間変更の可能性あり

※要事前
予約



イルカ・アシカショー

ハロウィンショー

●開催期間：9月16日(土)～10月31日(火)

クリスマスショー

●開催期間：12月1日(金)～12月25日(月)

春のイルカ・アシカショー

●開催期間：3月20日(水祝)～5月26日(日)



その他

・能登の豊かな里海講座

●開催日 11月5日(日)・1月14日(日)

開催時間：13:30～(約20分間) 場所：レクチャーホール

・お正月イベント

●開催期間：1月1日(月祝)～1月3日(水)



お得情報

お 得

入場無料day

中学生以下無料

○期間 毎月19日(県民育児の日) ※ご家族とお越しの場合

1月1日(月祝)～1月3日(水)

新小学1年生無料

○期間 3月20日(水祝)～4月6日(土)

※生物の健康状態、天候などにより変更する場合があります。

※イベント等の詳細につきましてはホームページをご覧ください。



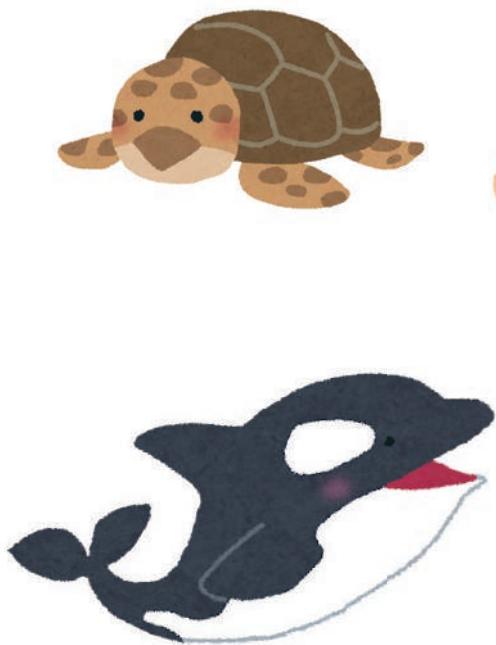
(田中)

イベントの詳細や他のイベント情報はホームページをチェック！

のとじま水族館

検索

飼育員のお仕事



獣医師のお仕事

水族館の獣医師は何をしているのか？を紹介していきたいと思います。

まずは、飼育動物たちの健康管理です。可能な限り、動物たちが病気にならないように予防や早期発見を心がけています。そのためには定期的に血液や胃液、呼気、尿、便などを採取し検査したり、超音波検査（エコー）をしたりします。血液採取は、イルカ、アシカ、アザラシ、ペンギン、さらには



＜ペンギンの採血＞
フリッパーの内側から採血します



＜ジンベエザメの採血＞
ジンベエザメと一緒に泳ぎながら採血します

ウミガメ、ジンベエザメも行います。



＜エコー検査＞
イルカはハズバンダリートレーニングにより検査の体勢をとってくれます

これらの検査を行う時には、動物たちにも協力してもらっています。飼育員からの無理強いはせず、健康管理に必要な動作を動物たちに行ってもらうためのトレーニングもしています。これをハズバンダリートレーニング（受診動作訓練）といい、動物たちにも私たちにもとても重要なトレーニングです。

しかし、予防などを行っていても、残念ながら病気になってしまうことがあります。もし病気になってしまったら、前述のさまざまな検査を行い、その結果によって適切な治療を始めていきます。治療としては、食べる意欲がある動物には薬をエサと一緒に与えることが基本になっています。一方で、食べることが難しい動物には点滴をす

ることもあります。さらに、病気の症状によっては、食道や胃の中をみることができる内視鏡検査が必要になることもあります。治療した動物たちが元気になっていくと、よかったです。やっぱり動物たちには健康でいてほしいものです。

さて、ここまで獣医師の主な仕事を紹介してきましたが、実は、のとじま水族館の獣医師は飼育員（トレーナー）としての仕事もしています。時には、調餌や給餌をするだけでなく、色々なトレーニングをしたり、イルカ・アシカショーに出たり、ペンギンとお散歩したりもします！



ですから、飼育員の中に紛れている獣医師を探してみるのも面白いかもしれませんね。

〔小枝〕

のとアクアニュース

4/1 ~	水族館裏側探検隊（一部休止日あり）
3/18 ~ 5/28	イルカ・アシカショー「イースター～春のお祭り～」開催
3/20 ~ 4/6	新小学1年生入場無料（水族館・海づりセンター）
4/8 ~ 7/2	企画展「むかし、むかしの魚展」開催
4/19 ~ 5/21	「みんなのはてなに答えます！」開催
4/22	いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭 2023 in のとじま水族館開催
5/4 ~ 6	8時開館&ペンギンのお出迎え、臨時イルカ・アシカショー実施
5/5	中学生以下入場無料
5/14	能登の豊かな里海講座（第1回）開催
5/20 ~ 6/25	開館40周年イベントSNS当選投稿写真・動画展開催
5/27	初心者のための海づり教室（第1回）開催
5/28・31	「世界カワウソの日」イベント開催
5/30 6/4	「世界アシカの日」イベント開催
6/8・11	「世界海洋デー」イベント開催
6/25	チャレンジメニュー「里海教室」実施
6/26	レクチャーホール マダイ入替
7/1	初心者のための海づり教室（第2回）開催
7/8 ~ 10/1	企画展「夏はやっぱり金魚でしょ！！展」開催
7/15 ~ 8/31	夏のイルカ・アシカショー「海のアスリートたち」開催
7/15 ~ 9/23	夜の水族館開催（全8回）
7/23	能登の豊かな里海講座（第2回）開催
7/30 8/6・20	夏休みプチ講座開催
8/1	「金沢武士団」とコラボした熱中症対策啓発イベント開催
8/12 ~ 14	8時開館&ペンギンのお出迎え、臨時イルカ・アシカショー実施
8/27・30	「国際ジンベエザメの日」イベント開催
9/1 ~ 30	ハチベエ・ハク1周年キャンペーン開催
9/16 ~ 10/31	イルカ・アシカショー「ハロウィンショー」開催
9/18	敬老の日 65歳以上入場無料（水族館・海づりセンター）
9/24	チャレンジメニュー「ペンギン教室」開催



風と緑の楽都音楽祭2023 in のとじま水族館



開館40周年イベントSNS当選投稿写真・動画展



夏のイルカ・アシカショー「海のアスリートたち」

実習・職場体験等

7/27 ~ 28	7/31 ~ 8/1	七尾市立七尾中学校
8/1 ~ 10		仙台 ECO 動物海洋専門学校
9/3 ~ 7		日本大学



ハチベエ・ハク1周年キャンペーン

会議・研修会の出席

4/19	(公社) 日動水協中部ブロック園館長会議 出席（オンライン）
5/23 ~ 24	(公社) 日動水協通常総会 出席（山口県）
6/21	メンタルヘルス研修実施（園内研修）
7/6 ~ 7	(一社) 日本水族館協会総会 出席（長崎県）
7/10	(公社) 日動水協生物多様性委員会バンドウイルカ・カマイルカ合同計画推進会議 出席（オンライン）
7/27	石川県博物館協議会総会 出席（金沢市）
8/22	メンタルヘルス研修 出席（オンライン）
9/6 ~ 7	(公社) 日動水協中部ブロック獣医師研究会 出席（静岡県）
9/12	産業保健研修会 出席（オンライン）
9/24	(一社) 日本水族館協会トレーニング勉強会 出席（オンライン）
9/26 ~ 27	(公社) 日動水協近畿ブロック水族館飼育係研修会 出席（滋賀県）

